

ヒメハゴロモゴケ *Homaliodendron exiguum* (Bosch et Sande Lac.) M.Fleisch.

【評価理由】

本種の属するキダチヒラゴケ属 (*Homaliodendron*) には、日本産として 3 種が記録されている。本種は其中でも最小の種で体長 2~4cm と小形である。全国的にも稀産で、準絶滅危惧種に指定されている。県内既知産地も 5ヶ所に過ぎず絶滅のおそれがある。

【形態】

全形が小型な上に分枝も少なく、葉序は平面的、他種に紛れて目立たない。茎葉は舌形、葉の先は広く円頭で、細胞の突起による小さな鋸歯になっている。日本ではまだ孢子体が見つかっていない。



長篠村(現新城市)、水谷正美 No.1263.

【分布の概要】

【県内の分布】

現在 5ヶ所、新城市(旧鳳来町)の鳳来寺山参道沿いの溪流辺、西三河の豊田市松平町、豊橋市の石巻山などで記録されている。

【国内の分布】

中部以南の本州から四国、九州、沖縄まで分布する。

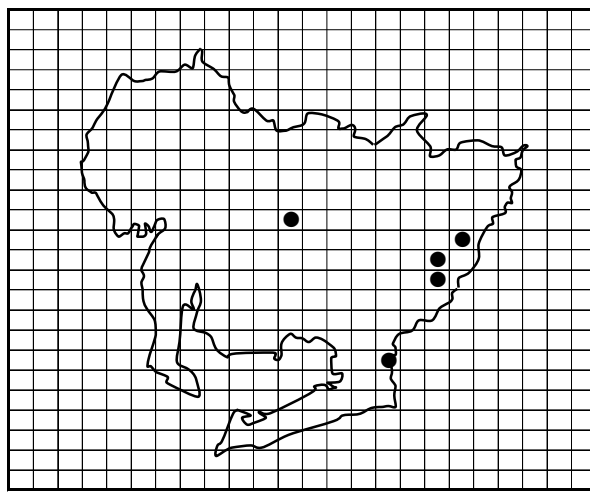
【世界の分布】

台湾から熱帯各地、オーストラリア、アフリカに分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

暖地の樹陰の湿った岩上、ときに樹皮にも着生する。同属のキダチヒラゴケが時に体長 10cm に達するのに対して、2~4cm 未満の小さい種で、まばらに生える。

県内分布図



【現在の生育状況／減少の要因】

鳳来寺山参道沿いの溪流辺の生育地では、その後綿密な調査を行ったが、発見できなかった。小型な種であるため見逃した可能性や、溪流の上流あるいは下流へ生育地が移動している可能性があり、再調査が望まれる。石巻山のものは自然保護地域内にあるため健在と思われる。

【保全上の留意点】

小型な種で、周囲のわずかな環境の変化で容易に消滅するおそれがあり、周辺の環境維持が重要である。県内における新しい産地の発見が望まれる。

【特記事項】

暖帯林内の微細な環境下に稀産する本種が県内で確認されていることは、愛知県のセン類フロラを特徴づけるものとして貴重である。

【関連文献】

高木典雄, 1965. その後みつかった分布上注意すべき鳳来寺山の蘚類. 鳳来寺山紀要, 8: 2-3. 鳳来寺山自然科学博物館.